

【お問い合わせ先】

畜産研究所
生産基礎技術研究室
096-248-6433

くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定②

褐毛和種種雄牛 みつたましげいーていー あか牛「光玉重ET」

光玉波を父に持つ本牛は、**枝肉重量が極めて優れ**、ばらの厚さにも優れていることから、特に**肉量面の改良に貢献**する希少系統種雄牛として期待できる種雄牛です。



光玉波

まり

第五玉波

くにいずみ9

第十六光重

たまひかり

玉波

ふじみつ

第二光泉

くにほり

光重ET

第七さつき

波丸

第二たまみつ

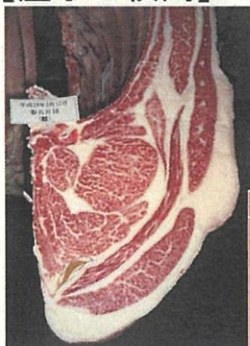
【現場後代検定成績】

(単位:kg, cm², cm)

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(3等級以上)
去勢 9頭	24.9	513.2	54.8	8.2	2.9	73.0	3.33	44.4% (4/9)
雌 5頭	24.9	491.3	53.2	8.2	4.0	72.1	4.20	40.0% (2/5)

※BMSNo(牛脂肪交雑等級)…等級が高いほど霜降りの度合いが高い

【産子の枝肉】



性別	雌
枝肉	472kg
ロース	60cm ²
バラ厚	8.4cm
BMSNo.	8
等級	A-5

形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV	標準化育種価 (SBV)とは?
枝肉重量	小さい							大きい	3.27	育種価(遺伝的能力を明確化した数値)
ロース芯面積	小さい							大きい	1.63	1を超えるとその特徴を持つといえる
バラの厚さ	薄い							厚い	2.54	
皮下脂肪	厚い							薄い	0.15	
脂肪交雑	少ない							多い	1.42	

KUMAMOTO Pref.
農業研究センター
〒861-1113
熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411 fax 096-248-7039
E-mail
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 企画情報課までご連絡ください。

農業研究センター HPはこちら →



管理部
総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部
企画情報課
096-248-6422
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444

茶業研究所
096-282-6851

高原農業研究所
0967-22-1212

球磨農業研究所
0966-45-0470

生産環境研究所
土壌環境研究室
施設経営研究室
病害虫研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433

草地畜産研究所
0967-32-1231

アグリシステム総合研究所
アグリビジネス支援室
フードバレー推進室
生産情報システム研究室
いぐさ研究室
野菜栽培研究室
いぐさ普及指導室
0965-52-0372

果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723

天草農業研究所
0969-22-4224

農研NOW 夏号 No.29 令和元年8月

詳細及びその他研究成果情報はこちら



令和元年度

「農業の新しい技術」公表!

- 1 イチゴ「ゆうべに」の畝連続栽培では、2kg/10a以下の基肥窒素量で収量・品質が安定する
- 2 飼料用米の育苗箱全量施肥栽培は牛ふん堆肥の施用により収量が安定する
- 3 褐毛(あかげ)和種「第二十二光重」の選抜
- 4 黒毛和種「久茂国」の選抜
- 5 褐毛(あかげ)和種「重波泉」の選抜
- 6 褐毛(あかげ)和種「光玉重ET」の選抜
- 7 温州ミカン「熊本EC11」はシートマルチ栽培により高品質な果実が生産できる

※「農業の新しい技術」…生産現場へ速やかに普及・定着を図る成果



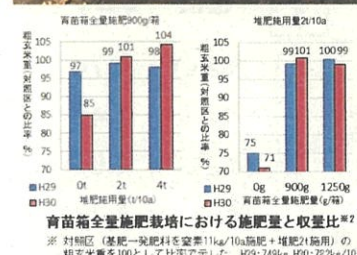
畝面耕起作業



久茂国



重波泉



光玉重ET



第二十二光重

★イベント情報

果樹関係
成果発表会

9/11(水)
13時30分~
16時45分
果樹研究所 研修館

(お問い合わせ先)
0964-32-1723

【目次】

- ①優良種雄牛の作出 黒毛和種「久茂国」の選抜 P.2
- ②イチゴ「ゆうべに」の畝連続栽培は、2kg/10a以下の基肥窒素量で収量・品質が安定する P.3
- ③優良種雄牛の作出 褐毛和種「光玉重ET」の選抜 P.4



【お問い合わせ先】

畜産研究所
生産基礎技術研究室
096-248-6433



黒毛和種種雄牛

「久茂国」(ひさしげくに)

脂肪交雑が歴代最高の成績であり、ロース芯面積にも優れていることから、肉質の改良に貢献することが期待できる種雄牛です。



安福久
ゆりえ

- 安福165の9
- もとじろう
- 百合茂
- ふきこ
- 安福(岐阜)
- しげふじ139の7
- 紋次郎
- もとひかり
- 平茂勝
- しらゆり
- 北国7の8
- 第2のりみ

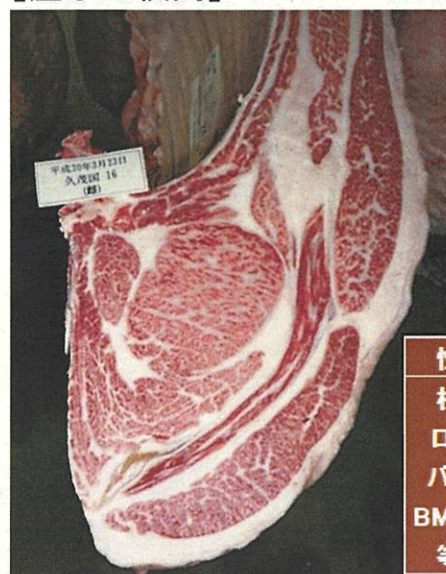
【現場後代検定成績】

(単位:kg, cm², cm)

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばらの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(4等級以上)
去勢 6頭	28.5	480.1	61.7	7.9	2.7	74.3	7.27	83.3% (5/6)
雌 18頭	28.7	427.5	61.4	7.5	2.6	74.8	7.11	83.3% (15/18)

※BMSNo(牛脂肪交雑等級)・・・等級が高いほど霜降りの度合いが高い

【産子の枝肉】



性別	去勢
枝重	526kg
ロース	67cm ²
バラ厚	8.4cm
BMSNo.	11
等級	A-5

形質	程度	-1	0	1	2	3	程度	SBV
枝肉重量	小さい						大きい	0.70
ロース芯面積	小さい						大きい	2.49
ばらの厚さ	小さい						大きい	0.66
皮下脂肪	厚い						薄い	1.22
脂肪交雑	少ない						多い	2.41

標準化育種価 (SBV) とは?

育種価(遺伝的能力)を明確化した数値1を超えるとその特徴を持つといえる

【お問い合わせ先】

農産園芸研究所
野菜研究室
096-248-6446

稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発

イチゴ「ゆうべに」の畝連続栽培は2kg/10a以下の基肥窒素量で収量・品質が安定する

近年、現地では省力化や排水性の向上のため、畝連続栽培*が増えつつあるため、最適な基肥窒素量について明らかにしました。

※前作で用いた畝をそのまま次作で連続して使用する栽培方法。

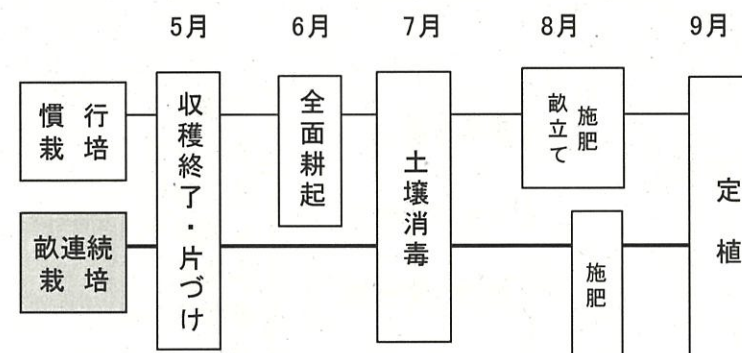


図1 畝連続栽培の作業スケジュール(5月~9月)



写真 畝面の耕起作業の様子

- 【長所】
 - ・省力的
 - ・排水性の向上
 - ・計画的な定植ができる
- 【短所】
 - ・前作の肥料が残存

◆研究の成果

1. 基肥窒素量を減らしても、定植後も順調に生育します。収量については、年内の可販果収量も減少せず、総可販果収量も安定します。
2. ガク枯れや奇形果などの障害果の発生が少なく、秀品率も向上します。

以上のことから、「ゆうべに」の畝連続栽培では、基肥窒素量を2kg/10a以下にすると、収量及び品質が安定しました。

表1 窒素施肥量と果実品質

年次	基肥窒素量 (kg/10a)	障害果発生率 (%)		秀品率 (%)
		ガク枯れ	奇形果	
H28 (2016年)	0	0.2	0.2	92.5
	1.5	0.2	0.1	92.3
	3	3.3	2.4	91.2
H29 (2017年)	0	0.1	0	93.1
	2	0.5	0	94.6
	4	1.3	0.6	88.9

施肥量が少ない区に比べて障害果の発生が多い

秀品率が高い

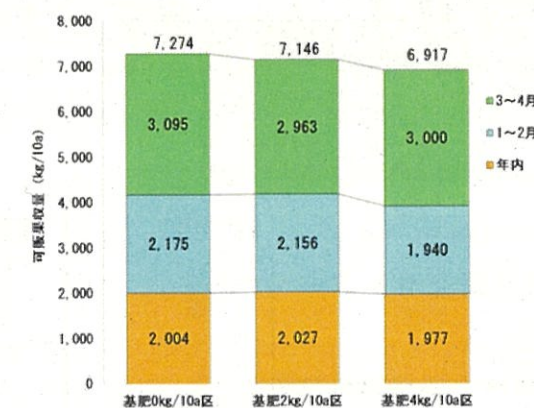


図2 基肥窒素施肥量と総可販果収量

◆普及上の留意点等

定植後の生育を見ながら、必要に応じて追肥を行いましょう。基肥を施用する場合は、畝中心にできるだけ深い位置で肥料を混和しましょう。